

グローバル・リーダーシップ・セミナー 愛媛大と台湾科技大の学生がサイクリングなど

日月潭サイクリング

愛媛大学は、グローバル・リーダーシップ・セミナー「台湾」をこのほど4日間実施した。同プロジェクトは、令和4年で5年目を迎え、日本と台湾の学生が地域の歴史・文化等に触れるフィールドワークを行い、日台間の異同等に目を向けつつ、実社会で有用となるグローバルな感覚や、協働を促進するコミュニケーション・リーダーシップのあり方について実践的に学ぶことを目的としている。国立高雄科技大学の学生を受け入れて毎夏実施する「自転車」をツールとした産学官連携事業「サイクリングプロジェクト」の海外派遣版。

令和4年は、愛媛大と国立高雄科技大学(台湾)の学生が、3年ぶりに対面で実施。愛媛大から23名の学生が参加し、全体で48名の学生が参加した。

今回の新規プログラムとして、フィールドワークに、日月潭や台湾電力の建設に関する歴史や日台での地政学、台南山上花園水道博物館を訪問し、台湾文化の理解を深める機会を持った。

また、日台の学生間で、日本での神社の参りの仕方やコミュニケーションのきつかけとして、よく取り上げる話題などをテーマに共通点や違いをもとに文化的背景についてプレゼンとディスカッションを実施。

相互の文化理解を深める機会となった。さらに、日月潭では、日台混合チームでサイクリングを行った。

最終日に行われた研修から得られた学びと今後の展望の発表(成果発表)では、言葉が通じなくても勇気を出して伝えようとする大切さや、何事も全力で取り組むことの大切さの再認識、他の国々への関心が高まったなどの発表が行われた。

学生たちは、オンラインでの事前の交流により、対面開催までに自己紹介や文化に関する紹介の機会があったことに加え、初めて対面でお会った学生同士が4日間で互いの強み・弱みを共有できる関係性を築くという体験を通じて、さまざまなことを学ぶことができた。



国立高雄科技大学前で

サイエンスウインタースクール 埼玉大が女子高校生ら対象に実施

埼玉大学では、女子高校生と保護者向けの「サイエンス体験ウインタースクール」をこのほど2日間開催した。このプログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」(WISE-P)の一環として実施され、今回は令和3年度に引き続き2回目となる。昨年度は「サイエンス体験オータムスクール」として実施した。

今回のウインタースクールでは、サイエンス体験、保護者向け懇談会と女子学生との交流会を実施。サイエンス体験は、八つの研究テーマの中から希望の研究テーマを選んでもらい、3人ずつに分かれて行い、2日間にかけて講師とティーチングアシスタントの学生と



座談会

第9222号

(第三種郵便物認可)

交流しながら一つの研究テーマを深める体験を提供した。初日は参加生徒同士も初対面であったため、慣れるのに少し時間がかかったり受け身の様子もあったが、2日目には積極的なチャットで自発的に発言をするような今後のチャットも見受けられるなど、参加者の今後の成長も期待される。

保護者会では、石井理工学研究科長、長澤理理学部長、大学院理工学研究科の荒木教授などが参加して保護者が参加して保護者の質問に対応。進路の詳細などさまざまな話題があがった。

閉講式では、石井理工学研究科長から、参加者一人ひとりに修了証書を授与した。埼玉大ダイバーシティ推進センターは、今後このようなプログラムを開催する方針だ。



サイエンス体験で実験を行う参加者